

習熟度別クラス編成に関する考察(1)

田原 良子*, 堀江美智代*, 竹内 光悦**

A Study about Streaming English Classes (1)

Yoshiko Tahara* and Michiyo Horie* and Akinobu Takeuchi**

大学教育の大衆化による学生の学力多様化への対応として、学生の能力に応じた効率的な指導の必要性が叫ばれるようになって久しい。本学英語科でも平成12年度から学習者の能力に応じた指導の試みとして、英作文と英会話において1年次の後期から習熟度別クラス編成を実施し、1年次の前期には学習者のレベルに応じた科目を開講する運びとなった。そこで、習熟度別クラス編成前の1年生と編成後の2年生の英語学習に対する意識や態度を調査し、それらの比較を行い、習熟度別クラス編成の意義と問題点を解明するためにアンケート調査を行った。アンケートの結果分析より、習熟度別クラス編成をしている2年生の方が習熟度別クラス編成をしていない1年生よりも、授業の難易度に関してより適切であると感じており、満足度も高いことが分かった。2年生を対象とした上級クラス設置の影響を問う質問では、上級クラスの方が普通クラスより肯定的な傾向が見られたが、全体的にはどちらのクラスにおいても、授業の理解度、英語上達への効果及び学習意欲は向上している。また、1年生でも個々の学生の能力に応じた指導を望む声が多かった。

Key words: [アンケート調査] [英語教育] [仮説検定] [クラス編成] [習熟度]

(Received November 6, 2000)

第1章 はじめに

高等教育志向の高まりと、少子化による18歳人口の減少が進むなか、大学教育の大衆化が拡大しており、今までにない学生の多様化が進んでいる。能力、適性、学習歴の異なる学生を同様に指導しても、学習効果の向上はあまり期待できない。そのために、現在、様々な大学や短大で、学習者のレベルに応じた科目が開講されたり、習熟度別クラス編成が実施され、その報告もみられるようになった(大阪女学院短大, 1990; 鳥飼&進藤, 1996)。

大阪女学院短期大学では、統合的・意思伝達英語時代を支える制度の一つとして、習熟度別クラス編成を実施している。1年次の統合科目では5段階に、2年次のトピックスタディーズⅠ及びⅡでは2段階に分かれている。東洋英和女学院大学では、1990年度よりゆるやかな3段階に分けた進捗別クラス編成を実施している。現状の問題点として、同じ進捗レベルの授業内容のばらつき、教員の適正な配置、ミス・マッチの学生に対する配慮の必要性などが挙げられ

* 鹿児島純心女子短期大学英語科 (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

** 鹿児島大学大学院理工学研究科生命物質システム専攻 (〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21番35号)

ている。

高橋(1999)は、多様化した入試制度により入学生の英語力の差がますます広がっていることに着目し、英語習熟度テストを実施した。特に、英語を苦手とする学生が増加しているというテストの結果から、英語教育改善策として「習熟度別クラス編成」の実施を所属大学に提言している。その効果として、学力向上が期待できるだけでなく、再履修クラスの削減につながり、ひいては正規のクラスサイズの縮小も可能で、学生にとって学びやすい環境になるとも述べている。

習熟度別クラス編成は両刃の剣と称され、その功罪は相半ばしていて、日本だけでなく海外でもその評価は時代と共に変化している(高橋, 1999, p.147)。習熟度別クラス編成の利点として、学生の授業の理解度が増し、学力が向上し、学習意欲が増加することが挙げられる。一方、教師にとっては授業が教えやすくなると考えられる。短所としては、学習者に差別・選別意識が生まれたり、進度、教科書の選定、及び成績評価が難しくなることが挙げられる。

このような事例報告も、習熟度別クラス編成に関して、概して肯定的なものではあるが、個別的、逸話的なものが多く、学生の学習態度や意識及び学習効果の関係を多角的に調査したものではない。英語教育をより充実したものとするためには、習熟度別クラス編成を総合的に分析、考察する必要があると思われる。

第2章 研究の目的

2.1. 本研究の目的

学生の能力が著しく違う場合、習熟度(能力)別クラス編成を取ることが望ましいとされている。習熟度別クラス編成の利点の一つは、学生のレベルにあわせて適切な指導が行われ、学習効果が上がるということである。しかし、実際、習熟度別クラス編成によって、どのような効果があるのか、また、その運営上の問題点、学生や教師の意識等に関して総合的に研究したものが少ない。本研究の目的は、習熟度別クラス編成をより体系的に分析、考察し、英語教育をより充実したものとするために一つの指針を提供することである。

鹿児島純心女子短期大学英語科(以下本学科という)では、1979年の創設以来、少人数クラス編成のもとで、英語による英語教育を柱としたクラス運営を行ってきた。しかし、昨今、入学者の学力の差が著しく、教員が中間層の学生の能力にあわせて授業を進めていく場合、両極の層の学生たちの学習効果が上がらないという問題がでてきた。こうした状況を解決するために、2000年度より、英会話と英作文の授業に習熟度別クラス編成を導入した。

しかし、習熟度別クラス編成を実施した場合、学生の間に、優越感や劣等感を生み出し、学習意欲が損なわれるのではないかという問題がある。また、どのクラスをどんな方法で何段階に分割するのがよいのか、また、成績はどのようにつけるのかということも考慮しなくてはならない。そして、本当に、習熟度別クラス編成を導入することで、英語力が向上し、学習意欲も高まるのかという疑問もでてくる。従って、学生に対する習熟度別クラス編成の成果を、英語力の向上、学習に対する態度等から多角的に検討することが、本研究の第一の目的である。

本学科の習熟度別クラス編成は、他のプログラムと無関係に存在しているものでなく、カリ

キュラムの中で多様な学生の学習効果を高めるためのシステムとして、統合的に位置づけられる。従って、習熟度別クラス編成についての検討も、最終的には、授業内容や方法の一層の充実につながるものとなることを目指している。以上のことを要約すると、本研究の目的は次のようにまとめることができる。

1. 習熟度別クラス編成の成果を、学生の英語力の向上及び学習態度や意識の変化という面から、多角的に調査、分析する。
2. 上記1の検討を通して、クラス分けや成績評価にどのような配慮が必要とされているかを考察する。
3. 上記1, 2の考察から、英語教育をより充実したものとするための習熟度別クラス編成の在り方についてその方向性を1つの指針として提供する。

2.2. 本論の目的

本論は、前節で述べた目的をもつ本研究の基礎として位置づけることができる。すなわち、本論の目的は、第一に、本学科で導入した習熟度別クラス編成について、その目的、経緯、運営などの点からまとめ、今後の研究の基礎となる情報を明確な形で共有するということである。今後、習熟度別クラス編成による指導の充実をはかるためには、導入までの経過について具体的な知識を持つことは不可欠である。

第二に、習熟度別クラス編成前の1年生と編成後の2年生の英語学習に対する意識や態度を調査し、それらの比較を行い、習熟度別クラス編成の意義と問題点を解明することである。この点についての検討も、第5章を見れば明らかなように、習熟度別クラス編成の影響という面だけでなく、授業に対する満足度や難易度及びクラス編成に対する要望等について具体的に調査するということである。

最後に、本論で明らかにされる、習熟度別クラス編成導入の経緯と評価をふまえ、本研究の今後の課題を考え、将来への展望を開くことが、本論の第三の目的となる。

第3章 習熟度別クラス編成導入までの経緯

3.1. 鹿児島純心女子短期大学英語科の英語教育の概要

本学は、長崎純心聖母会を母体とする、カトリックの2年生女子短期大学として、1960年に創立され、英語科は1979年に設立された。2000年現在、生活学科と英語科とがあり、学生数は約800名で、そのうち184名が英語科の学生である。英語教育を担当している専任教員は14名、そのうち7名が外国人数員であり、出身地もイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ミャンマーと多様である。非常勤講師は年間2コマしか担当しておらず、専任教員による英語教育が徹底しており、カリキュラムに関する共通理解が図りやすいといえる。

初代学科長ハーカーは、「英語科を創設する際ひとつの動機は、日本の英語教育が成果をあげていない事に対し、改善の端緒をつくりたいということである」(Harker, 1984, p.103)と述べている。つまり、翻訳中心のそれまでの日本の英語教育から、オーラルコミュニケーションを重視した英語教育へと刷新を図ったといえる。ハーカーは、英語科の特徴をスタッフ、プロ

グラム、イノベーション、海外研修、及び学習寮の5つの点から述べている(Harker, 1984, pp.103-108)。最大の特徴は、外国人を多用し、少人数制による実践的な英語力の養成に重点を置いていることである。また、英語力向上のために、1年次の2～3月に、オーストラリアで、ホームステイをしながら各地の高等学校に少人数で通うという海外研修を実施している。(海外研修の経緯及び成果等については、岩切他を参照のこと:岩切他, 1992; Iwakiri, 1993; 池田, 1993; 岩切, 1993; 岩切, 1994)。さらに、1年次は、全寮制を取っており、3～4名の外国人教官と共に生活し、日常生活の中で英語を使うように指導されている。

平成5年度に入って、大学設置基準の大綱化にともない、平成6年度実施を目指してカリキュラムの改訂を行った。英語科の主な改正点は、必修科目を少なく選択科目を多くし、学生に自主性と責任を持たせることであった。「専門教育」を多く開講し学生に自主的に選択させ、「高等教育としての専門性」を高めたつもりであった。しかし、現実には、卒業に必要な最低単位を履修して卒業する学生が多く、開講しても受講者が少ない専門科目が多数出てきた。その後、少しずつ科目内容の見直しや、科目の増減が行われ、現在に至っている。

毎年1年次と2年次の5月に行う英語テストTOEICの成績を比較すると、本学科の英語教育の成果は明かである。1998年入学生は、1年次の平均は408.7点であるが、2年次には506.9点と100点近くも上昇している。このように、1年間で英語力が大幅に向上しているということは、海外研修を含めた全体のプログラムの成果といえる。卒業時に英語能力テストを実施してこなかったが、2000年度から実施することになった。このような統一テストは、今後、入学時から卒業までの英語力の成績を比較し、カリキュラムの評価や見直しをする上で1つの重要な資料となるであろう。

3.2. 習熟度別クラス編成の導入

英語科開設以来、少人数クラス編成、英語による教育、全寮制、ネイティブスピーカーの多用、海外研修などの英語プログラムの骨子は変わっていない。しかし、昨今、入学者の学力の差が著しく、教員が中間層の学生の能力にあわせて授業を進めていく場合、両極の層の学生たちの学習効果が上がらず、指導もやりにくいという問題がでてきた。また、学生のなかから、授業のレベルや内容に対する不満の声もあがってきた。こうした状況を解決するために、学長の発案で、習熟度別クラス編成導入について検討することになった。習熟度別クラス編成委員会が設置され、レベル分けの利点や問題点、クラス編成方法、評価等について、何度も討議を重ねた。その結果、下記のようなことが問題となった。

まず第一に問題となったことは、習熟度別クラス編成によって、本当に学習効果が上がるといえるのかを、他大学の事例を参照しながら、慎重に検討する必要があるのではないかということである。第二に、習熟度別クラス編成以外にレベル差に対応する代替案はないのかということである。第三に、能力別のクラス編成をする場合、どの科目に、どのような方法で、いくつのレベルに分割するのがよいのかという問題である。第四に、習熟度別クラス編成にともなう学生の心理的な問題である。第五に、成績評価をどうするかという問題である。この他にも、運営上、いろいろな問題があると考えられた。

以上の問題を検討する上で、まず、1999年6月に習熟度別クラス編成委員会が設置された。

次に、同年9月、在学生に対し、アンケート調査を実施した。英作文、英会話、英文法について、クラス分けに関する希望を尋ねたところ、能力別クラス編成を望む学生は、英作文で14%、英会話17%、英文法16%であった。また、クラス編成は従来のままで、上級及び基礎クラスを選択科目として別に開講することを望む学生は、英作文35%、英会話34%、英文法31%で、現状維持を望む学生は、英作文で50%、英会話49%、英文法47%という結果が出た。どの教科においても、約5割の学生が、現在の授業レベルはちょうど自分の英語力にあったものだと感じており、半数以上の学生は、特に授業内容のレベルの変化は求めているということがわかった。しかし、授業内容のレベルアップ、あるいはレベルダウンを求めている学生も約3割おり、無視できない割合であった。

上記問題に対する解決策として、能力別クラス編成を行うか、クラス編成は従来のままで、上級や基礎のクラスを別に選択科目として開講するか2つの方法が考えられた。どちらも学生の能力を高める方策として有効であると考えられたが、アンケートでは、能力別クラス編成の結果、下のクラスに入れられた学生の学習意欲への悪影響を懸念するコメントが多く見られた。このようなアンケート結果からも、性急に能力別クラス編成を実施するよりも、能力の高い学生や力の弱い学生を対象とした科目を新たに開講する方法を取る一方で、カリキュラムの全体的見直しを行い、能力別クラス編成の実施についての検討を重ねてはどうかという結論に達した。

新しく選択科目を設けるために、さらなる問題が出てきた。現カリキュラムより年間で12コマ増えることになり、教員の持ち時間や負担を考えると、カリキュラムのスリム化を図る必要があった。その上で、担当者を決定し、新しい科目のシラバス、教科書等について、早急に検討しなければならないとなったのである。新選択科目の受講条件をどうするのか。プレイスメントテストを実施する場合、どんなテストにするのか。クラス分けは、学生の希望や教師の推薦を取り入れるのか。また、新選択科目導入の効果を計るために、学生にアンケートと語学力テストを行う必要があるのではないかなど、検討すべき問題があまりに多かった。

このような問題を検討しながら、英語科として、平成12年度から12科目の新選択科目を開講したいという要望を、教務課に提出した。しかし、これは、英語科カリキュラム全体として、科目数が多すぎることで、時間割作成上も問題があることなどから、教務課より見直しを求められた。委員会で再検討した結果、代替案として、1年生の前期のみ、上級英語と基礎英語の2科目を新しく選択科目として導入し、英会話と英作文については、1年生後期、2年生前期及び後期に、上級クラスを1クラス、普通クラスを4クラスの2レベル編成にする案を提出し承認された。

3.3. 習熟度別クラス編成の運営

前節で述べたような経緯を経て、2000年度から、習熟度別クラス編成を実施することになった。習熟度別クラスを運営する上で、特に問題となったことは、クラス編成の方法、同一科目の授業内容の統一、成績評価である。

2年生のクラス編成方法に関しては、習熟度別クラス編成委員会で検討し、次の2案を英語科の会議に提出した。

案1：能力テストと1年生の成績（担当教官の推薦）と学生の希望

案2：1年生の成績（担当教官の推薦）と学生の希望

上記の案に関して、学生の能力は、1年間英会話及び英作文を担当した教官が、正確に把握しているため、能力テストは不要とする意見と、長期休暇中に、海外研修に参加したり、自習によって英語力が変化することを考慮して、学期始めにテストをする必要があるという意見に分れた。最終的には、学生の希望を反映することとし、アンケートを取った結果、案2の希望者が圧倒的に多かったため、2000年度に関しては、1年次の成績（担当教官の推薦）と学生の希望をもとに、英作文及び英会話の担当教官が全員で討議し、上級クラスの学生を決定することにした。

1年生後期の英作文及び英会話のクラス編成方法に関しては、2年生と同様であるが、前期の選択科目である上級英語及び基礎英語については、入学時にアンケート及び英語テストを実施し、その結果によって、担任が、2つの選択科目から適切な選択科目の履修を勧めることにした。入学時のアンケートでは、英語関係の資格取得や、海外滞在経験の有無や期間等について尋ね、また、英語テストは、実用英語技能検定試験（英検）2級の模擬試験を実施することにした。テストは、学生の能力を測定するためだけでなく、本学科に合格した学生に、課題を与えて入学までに英語の勉強をさせるという目的もあり、一般的に良く知られている英検2級の模試を実施したが、テストの妥当性に関してはまだ検討中である。今後、習熟度別クラス編成の学習効果という面から、事前及び事後テストの実施も含めて、英語テストに関わる諸問題を検討していく。

授業に関しては、同一科目を教える教官が集まり、内容の同じ授業を展開するために、シラバスを再検討し、使用する教科書を選定した。また、成績評価に関しては、学期末に統一テストを実施し、その結果とそれぞれのクラス内での成績を合わせて、最終成績を出すことにした。統一テストの割合は25%とし、この最終成績をもとに、後期のクラス編成を実施することにした。

第4章 調査対象及び方法

調査対象は、鹿児島純心女子短期大学英語科の学生で、2000年前期の科目を履修した1年生80名と2年生104名である。

調査方法は、アンケート方式をとり、前期授業終了の7月に実施し、回収人数は、1年生80名、2年生86名、回収率90.2%であった。

アンケートの目的は、習熟度別クラス編成前の1年生と編成後の2年生の英語学習に対する意識や態度を調査し、それらの比較を行い、習熟度別クラス編成の意義と問題点を解明することである。調査項目は1年生用、2年生用、それぞれ29個及び27個設けた。

1年生用のアンケートは、主に、「授業の難易度」、「授業に対する満足度」、「習熟度別クラス編成について」及び「基礎英語と上級英語について」の4つの部分から構成されている。「授業の難易度」及び「授業に対する満足度」では、英作文及び英会話の難易度や満足度について尋ねた。また、授業に対する満足や不満の理由として、レベル、学習項目、進度に関する質問

項目も設けた。「習熟度別クラス編成について」では、クラス編成に対する学生の希望や、英作文及び英会話以外の科目で習熟度別編成を望む科目について尋ねている。「基礎英語と上級英語について」においては、基礎英語と上級英語を履修した影響について、授業の有益度、英語上達度、授業への参加度という点から質問し、さらに、習熟度別クラス編成導入後も当該科目の存続を希望するかなどについて尋ねた。

2年生用のアンケートも1年用とほぼ同様であるが、2年生には開講されていないため、「基礎英語と上級英語について」の項目はない。また、既に行っている習熟度別クラス編成の効果を測るために、「習熟度別クラス編成について」に、上級クラス設置の是非に関する質問項目や、習熟度別クラス編成が授業の理解度、授業への参加、英語上達への効果、学習意欲などに与えた影響についての質問項目を加えた。

回答の形式については、学生の一般的傾向を知るために、5段階の多肢選択法が中心となる。理由を述べさせる箇所、教科を挙げさせる項目及びいくつかの項目の回答に見られる「その他」などでは自由に記述させた。

このようにして得られた回答に対して、設問に対する未記入など分析不可能なものを除いて、統計解析を行った。統計解析方法として、アンケートの各項目についての単純集計及びその中のいくつかの項目間のクロス集計を行った（単純集計表及びクロス集計表：表2～表28）。加えて、難易度と満足度の関係、満足度とクラス編成選択の関係、満足度とその理由の関係などについての独立性の検定（一般化マンテル検定¹⁾や正確検定²⁾）を行った。1年生と2年生を比較するために、マンホイットニーのU検定³⁾やカイ2乗検定を実施した。また、2年生全体と上級及び普通クラスそれぞれにおいて、上級クラスを設けたことによる影響を見るために、1標本のウィルコクソンの符号付き順位検定⁴⁾を用いて評価した。表1に、アンケート項目、検定法、及び検定結果を示す。

第5章 結果と考察

5.1. 授業の難易度

5.1.1. 1年生

英作文、英会話、選択科目⁵⁾（基礎英語、上級英語、翻訳法）のそれぞれの科目について、難易度を尋ねた結果（表2）、「ちょうど良い」という答えが一番多いのは、英会話（73.8%）で、英作文、基礎英語、上級英語でも約半数近くが適切であると評価している。英作文では「やや難しい」（28.6%）と「難しい」（10.4%）を合計すると、約4割近くが難しいと感じており、英会話の13.8%より比率が高い。また、自分の英語能力と極端にレベルの異なる「難しい」または「易しい」と答えた率は、それぞれ英会話で5.0%と0%、英作文で10.4%と1.3%である。このことから、英会話より英作文のクラスで、学生の能力差があると推測される。

5.1.2. 2年生

英作文、英会話のそれぞれの科目について難易度を尋ね、その結果を普通クラスと上級

クラス、全体で表したのが表3⁶⁾である。この表から分かるように、いずれの場合も「ちょうど良い」という答えが一番多く、英会話、英作文ともに全てのグループで60%以上の学生が難易度は適切であると答えている。英作文では、上級クラスの「ちょうど良い」が85.7%と他のグループより高い比率となっている。また、自分の英語能力と極端にレベルの異なる「易しい」と「難しい」を選んだ学生は、上級クラスでは見られないが、普通クラスでは全ての選択肢が現れている。英会話では、どのグループでも3分の2程度の学生が難易度は適切であると評価している。しかし、上級では「やや難しい」が31.3%、「やや易しい」が6.3%、「易しい」が皆無であるのに対し、普通クラスでは「やや難しい」は2.0%にすぎず、「やや易しい」と「易しい」の合計は30%をこえる。

検定の結果、英作文においては難易度とクラスの関係について独立性は棄却されなかった(表1-10)ものの、上級クラスの方に難易度が自分のレベルに近いと感じている学生がより多い傾向が見られる。一方、英会話においては独立性が棄却され($p < 0.01$, 表1-11)、難易度とクラスは関係していると言える。上級クラスの方には難易度が高いと感じている学生が多く、反対に難易度が低いと感じている学生は普通クラスの方に多い傾向がうかがえる。

5.1.3. 学年別の比較

授業の難易度が「ちょうど良い」と答えた学生は、英作文では、2年生が69.1%、1年生が48.1%であり、英会話では、2年生が67.1%、1年生が73.8%である。両学年を「ちょうど良い」(満足群)と回答した学生とそれ以外の回答の学生との2群に分け、学年との間の独立性の検定を行った結果(表1-64, 65)、英会話では棄却されなかったが、英作文では($p < 0.01$)で棄却された。つまり、英作文においては、習熟度別クラス編成をした2年生の方が、習熟度別クラス編成をしなかった1年生と比べて、授業のレベルについてより満足していると思われる。

5.2. 授業の満足度とその理由

5.2.1. 1年生

学習内容に対する満足度を尋ねた結果が、表4に示してある。「満足」と答えた学生が一番多いのは上級英語(40.9%)で、「やや満足」(22.7%)を合わせると6割以上が満足しており、「やや不満」と答えた学生が2人(9.1%)しかいないことから、かなり満足度が高いといえる。英会話も、「満足」(26.6%)と「やや満足」(35.4%)の合計は6割をこえており、満足度が高いが、一方、「不満」と「やや不満」の合計を見ると、英会話では7.5%であるのに対し、英作文では34%と不満度が高い。

満足及び不満の理由として、レベルについての評価を表5に、学習項目についてを表6に、進捗についてを表7にまとめてある。レベルが「ちょうど良い」とする学生が一番多いのは、英会話で(73.3%)、次に英作文(56.7%)、選択科目(49.3%)と続く。しかし、満足度が一番高い上級英語で、レベルが「高い」(13.6%)と「やや高い」(36.4%)と指摘する学生が一番多く、「やや低い」(4.5%)と「低い」(0.0%)の合計が一番少ないのは注目に値する。つまり、学生の期待する授業は、安易なものではなく、幾分レベルの高いチャレンジングなもので

あるといえるかもしれない。確かに、レベルが高いことは不満の要因ともなるが、外国語教育の立場からも、学習者の現在の能力を少し超える程度のインプットが望ましいと言われており、適切な授業のレベルは学生の能力にある程度合致しながらもそれ以上のものでなくてはならないといえよう。

学習項目(表6)をみると、「興味深い」とする学生が英会話では28.6%で、「やや興味深い」を合わせると約6割近くいるのに対し、英作文では35%しかいない。また、「興味深い」とする学生が一番多いのは上級英語(31.8%)である。「つまらない」と「ややつまらない」の合計が多いのは、英作文(31.6%)、基礎英語(36.9%)である。これは、学生全体の傾向として、オーラルコミュニケーションに興味があり、英会話や上級英語では授業内容がリスニング・スピーキング中心で楽しく受講しているが、英作文や基礎英語では、書いたり覚えたりという単調な作業を伴うことが一つの原因と思われる。

進捗については、どの教科においても、進捗が「ちょうど良い」と答えたのは5割をこえる。「速い」または「遅い」と答えた学生が少ないことから、授業の進む速さは大体適切であると考えられる。英会話では、「ちょうど良い」と答えた学生が8割いるが、英作文では6割程度にとどまっている。進捗が「速い」と回答している学生も、英会話は1.3%しかいないが、英作文は11.8%とかなり多い。このことから、英作文の方が英会話に比べて、学生のレベル差があると考えられ、習熟度別クラス編成が必要と思われる。

さらに、満足度とその理由との関係を調べるために、独立性の検定を行った。英会話、英作文、選択科目とも、満足度と学習項目の独立性及び進捗との独立性が、棄却された($p < 0.01$, 表1-2, 3, 5, 6, 8, 9)。これより、学生が満足している要因として、学習項目の興味深さや授業の進捗が考えられる。しかし、満足度とレベルとの独立性が棄却されたのは、英作文のみであった($p < 0.05$, 表1-1)。したがって、学生が授業に満足する要因として、授業のレベルよりも、内容の興味深さや進捗がより関係すると言えるのではなかろうか。

5.2.2. 2年生

2年生の学習内容に対する満足度の結果が、表8に示してある。英作文、英会話全体としては、やや英会話の方が「満足」、「やや満足」の比率が高いが、不満度も高くなっている。英作文の上級クラスで一番多い回答は「満足」の37.5%で、「やや満足」の25.0%も加えれば6割以上が満足しているが、普通クラスでは「満足」と「やや満足」を合わせて42.3%で、上級クラスより低くなっている。英会話の上級クラスでは「やや満足」が52.9%と群を抜いて多く、11.8%の「満足」と合わせると3分の2近くを占め、残りの3分の1を「どちらともいえない」と「やや不満」で均等に分け合っている。普通クラスでは「満足」(27.5%)と「やや満足」(27.5%)を合わせて過半数をこえるが、「どちらともいえない」と「やや不満」がそれぞれ21.6%ずつあり、また、2.0%ではあるが「不満」という回答もある。

満足度とクラスに関する独立性及び差の検定の結果、英作文ではどちらも棄却されず(表1-12, 52)、英作文においてクラスと満足度は関係があるとは言えない。しかし、上級クラスの方が学習内容に関して普通クラスより満足度が高い傾向が見られた。英会話では独立性も差も棄却された($p < 0.01$, 表1-13, 53)。したがって、英会話ではクラスと満足度は関係して

おり、上級クラスの満足度が普通クラスよりも高いと言える。

満足及び不満の理由としての学習内容のレベル、学習項目及び進度について全体とクラス別に単純集計した結果を表9～11に、またそれぞれの項目と満足度とのクロス集計を表12～17にまとめている。

学習内容のレベルについては、英作文及び英会話のどちらにおいても、「ちょうど良い」が最も多く、約7割を占める。クラス別に英作文を見ると、普通クラスでは「ちょうど良い」以外は全て1割以下であるが、上級では「やや高い」が3割近くを占めている。英会話では、上級クラスの半数近くが「高い」或いは「やや高い」と答えているのに対し、普通では僅か3.9%にすぎない。また、上級では見られない「低い」或いは「やや低い」が、普通クラスには2割以上も見られる。レベルと満足度との関係では、どちらの科目においても、レベルが合っていると感じている学生に満足度の高い学生が多いが、特に英会話にその傾向が強く見られる。また、英会話においては、レベルが自分の能力以上だと感じている場合、満足度が高い学生の方が低い学生より多く、自分の能力以下の場合、満足度が低い学生の方が高い学生より多い。

学習項目への興味に関しては、英作文において「興味深い」と「やや興味深い」の合計が、全体の約3分の1いる。これをクラス別に見ると、上級クラスで8割を占めるのに対し、普通クラスでは3分の1程度に過ぎない。また、「つまらない」または「ややつまらない」も普通クラスは上級の倍近い割合となっている。英会話においても英作文と同様に上級クラスの方が学習項目の興味深さに対する評価が高い。学習項目と満足度との関係では、学習項目が「つまらない」または「ややつまらない」と回答したほとんどの学生は満足度が低く、また、「興味深い」或いは「やや興味深い」と感じている学生の満足度は全体的に高い。

進度に関しては、全体的に英作文では7割、英会話においては8割以上が「ちょうど良い」と答えていることから、進度に問題を感じている学生は少ないと言える。クラス別で見ると、上級クラスの回答が「ちょうど良い」と「やや速い」(英作文)、「ちょうど良い」と「やや遅い」(英会話)しか見られないのに対し、普通クラスではどちらの科目においても回答が分散している。英作文における進度と満足度との関係を見ると、進度が速いと感じている学生には、満足度が高い学生より低い学生の方が多い。英会話においては、進度が速かれ遅かれ合っていないと感じる学生は、「どちらともいえない」の2名を除き、全員満足度が低い。

レベル、学習項目及び進度と満足度の関係について科目別に独立性の検定を行った結果(表1-22～27)、英作文におけるレベルと満足度を除き、全てにおいて独立性が棄却された($p<0.01$)。これより、英作文と英会話のどちらの科目においても、学習項目及び進度と満足度は関係があり、また英会話においては学習内容のレベルと満足度も関係があると言える。この結果と表10を合わせて検討することにより、英作文においては、学習項目への興味の度合いが高く授業の進度が学生のペースに合っていれば、満足度が高くなり、興味の度合いが低く進度が速い場合は満足度が低くなると言えよう。一方、英会話では、学習項目への興味と満足度に関しては英作文と同様の傾向が見られるが、進度では速くても遅くても満足度が低くなり、学習内容のレベルにおいては、レベルが低いよりは高い方が満足度が高く

なると考えられる。

英作文と英会話を比較すると、英作文では英会話よりレベルが自分の能力以上だと感じている学生が多く見られ、また進度が速いと感じている学生の割合も大きい。必ずしも科目への興味の度合いと習熟度が比例するわけではないが、これは、英作文における学習項目への興味の度合いが、英会話より低いこととも関連している可能性も考え得る。

各理由における上級クラスと普通クラスの違いを見ると、全ての理由において普通クラスの学生の回答の方がより分散している。これは、普通クラス内における学生の能力差が大きいことが一因と思われる。

5.2.3. 学年別の比較

英作文の満足度について尋ねたところ、「満足」と「やや満足」は、1年生でそれぞれ13.8%, 28.8%, 2年生で16.5%, 28.2%と似たような傾向が見られた。しかし、「不満」と「やや不満」と回答したのは、1年生がそれぞれ6.3%, 27.5%, 2年生が2.4%, 11.8%であり、1年生の方が不満の比率が高い。英会話では、「満足」と「やや満足」は、1年生でそれぞれ26.6%, 35.4%, 2年生で25.3%, 28.9%と若干1年生の満足度の比率が高い。しかし、検定の結果(表1-62, 63)、英会話では、満足度と学年に関係があるとはいえなかった。ところが、英作文では、満足度と学年に関係があり($p < 0.05$)、満足度の5段階平均値も2年生の方が高いことから、習熟度別編成をした2年生の方が、習熟度別編成をしていない1年生より満足度が高いといえる。

では、満足及び不満の理由は何であろうか。英作文のレベルについては、「ちょうど良い」と答えている学生は、1年生56.7%, 2年生69.5%で、2年生の方が多い。また、1年生の3割が、「高い」(9%)か「やや高い」(20.9%)と回答しているのに比べて、2年生は2割しかない。また、1年生の場合、学習内容のレベルと満足度は関係がある($p < 0.05$)が、2年生では関係があるとはいえない。つまり、英作文では、習熟度別クラス編成をしている2年生は、レベルが適切であり満足度も高いが、習熟度別クラス編成をしていない1年生は、レベルが不適切なことが不満の1つの要因といえるのではなかろうか。

英会話では、「ちょうど良い」と答えている学生は、1年生が73.3%, 2年生が66.7%であり、結果が英作文と逆転している。また、満足度とレベルの関係について独立性の検定を行った結果、1年生では棄却されず、2年生では有意水準 $p < 0.01$ で棄却された(表1-4, 25)。1年生の場合、学習内容のレベルと満足度に関係があるとはいえないが、2年生では関係がある($p < 0.01$)と言える。つまり、英会話では、2年生は、すでに2レベルの習熟度別クラス編成をしているが、まだ、クラス分けが適切でないことに対し不満があると思われる。特に、レベルが「低い」(3.9%)または「やや低い」(19.6%)とした学生は、すべて普通クラスの学生である。このことから、上級クラスが1クラスしかないことは見直す必要があり、さらに細かい習熟度別編成が必要といえるかもしれない。

学習項目について、英作文では、1年生と2年生は同様の傾向を示しており、4割近くが「興味深い」または「やや興味深い」としている。英会話では、「興味深い」または「やや興味深い」と回答している学生は、1年生で57%, 2年生で55%とほとんど変わらないが、

2年生では、「つまらない」(6.0%)「ややつまらない」(20.5%)と答える学生が、1年生(1.3%, 10.4%)の約2倍いる。しかし、上級クラスにおいては、圧倒的に興味深いとする学生が多いことから、普通クラスの授業内容を見直す必要があるといえるかもしれない。

進度について、英作文では、「ちょうど良い」とする学生は、1年生63.2%, 2年生71.6%で、「速い」と答える学生は、1年生が11.8%で、2年生の約3倍である。英会話についても同様で、「ちょうど良い」とする学生は、1年生80.3%, 2年生82.1%であるが、「速い」または「やや速い」と答える学生は、1年生14.5%, 2年生7.7%であり、1年生の方が授業が速くについていけないと感じる学生の比率が高い。つまり、習熟度別クラス編成された2年生の方が、進度についても適切であると考えられる学生が多いといえる。今後、学生の習熟度にあったクラス編成をすることによって、1年生でも授業の進度が適切であると考えられる学生が多くなり、いわゆる落ちこぼれる学生は少なくなると考えられる。また、1, 2年とも、満足度と学習項目の独立性および満足度と進度との独立性が、有意水準($p < 0.01$)で棄却された。学生が満足している要因として、学習項目の興味深さや授業の進度が考えられる。

5.3. 習熟度別クラス編成について

5.3.1. 上級クラスを設けたことの是非(2年生)

習熟度別クラス編成を既に経験している2年生を対象に、上級クラスを設けたことに対する意見を尋ねた結果が表18にまとめてある。

英作文全体で見ると、「分からない」が45.3%と最も多く、肯定的な意見が48.9%, 否定的な回答は「あまり良くない」が5.8%あるだけである。つまり、上級クラス設置を肯定的に受け止めている学生と態度を保留している学生に二分されると言ってもよい。しかし、クラス毎に見ていくと、回答にかなりの差がでてくる。上級クラスでは強い肯定を示す「いい」が56.3%で、「ややいい」も合わせると87.6%と圧倒的に肯定的な意見が多く、否定的な回答は皆無である。これに対し、普通英作文のクラスでは否定的な回答こそ3.8%にとどまるが、「分からない」と態度を保留している学生が6割近くに上る。また、なぜそう思うのかと理由を尋ねた質問に対して、普通クラスで肯定的な回答をした学生に「上級クラスの学生にとっていいことだと思うから」という回答が目立った。つまり、普通クラスで肯定的な回答をしている場合でも、それが回答者本人にとっていいことだと必ずしも意味しない。

英会話全体においても英作文とはほぼ同様の傾向にあるが、否定的な回答が9.3%と英作文より幾分多い。クラス別に見ると、上級では8割近くが強い肯定を示す「いい」であり、「ややいい」も含めると94.1%が肯定的な意見であり、否定的な回答は見られない。これに対し、普通では肯定的な意見が約4割で、11.5%が否定的な回答をしている。検定の結果、英作文・英会話のいずれにおいても上級と普通クラス間には有意差は見られないが、どちらの科目においても上級クラスの方が普通クラスより習熟度別クラス編成に対して肯定的な傾向が見られる。これは、上級クラスはそれぞれの科目に1クラスしかなく、学生の英語能力がほぼ一定のレベルにまとまっているのに対し、普通クラスは4クラスに分かれ、学生数も多く、したがってレベル差が上級クラスに比べ大きいいため、習熟度別クラス編成の影響をあまり受けないことが要因の一つと考えられる。

5.3.2. 習熟度別クラス編成の影響

2年生を対象に習熟度別クラス編成を行ったことによりどのような影響があったのか、授業の理解度、授業への参加度、学習効果、学習意欲の4項目について調査を行い、それぞれの結果を表19～22にまとめている。

A. 授業の理解

英作文に関しては、全体・上級クラス・普通クラスの全てで「変わらない」が最も多い。全体で見た場合、6割をこえる学生が「変わらない」と回答し、32.6%が理解度が増したと答えている。理解度が低くなったという回答は4.8%のみである。上級クラスにおいては半数以上が理解度が上がったと感じており、理解度が下がったという回答は1名のみである。普通クラスでは7割近い学生が「変わらない」と感じており、理解度が下がったという回答は3.9%と低い。理解度が増したという学生も27.4%にとどまる。

英会話では、全体的には「変わらない」の62.7%、上級クラスでは「分かりやすくなった」の43.8%、普通クラスでは「変わらない」の72.0%がそれぞれで最も高い比率を示している。「やや分かりにくくなった」はどのグループにおいても5%前後であり、「やや分かりやすくなった」も同様に18～20%となっている。

B. 授業への参加

全体と普通クラスの英作文では5～6割が、上級では4割弱が「変わらない」と回答し、最も多い。上級クラスでは約半数が積極性が増したと回答しているが、普通クラスでは約2割程にとどまる。反対に、「消極的になった」或いは「やや消極的になった」と回答した学生は、上級では2名(12.6%)、普通クラスで19.2%となっている。英会話では、全体としては英作文と全く同じ結果となっているが、上級では「変わらない」が17.6%と英作文に比べて減り、積極性が増したとする学生が58.8%、減じたとするグループが23.6%と2極分化の傾向を示す。普通クラスでは上級とは反対に「変わらない」がやや増えて66.7%、積極性が増した学生が17.6%、減じた学生が15.7%となっている。

C. 学習効果

英作文及び英会話全体では効果が下がったとの意見が15.3%あるが、4割をこえる学生が、程度の差はあれ効果が認められたとしている。英作文の上級クラスでは7割近い学生がプラス効果であると感じており、2名(12.6%)がマイナスの方向に働いたとしている。普通クラスでは「変わらない」とプラス効果がそれぞれ4割程度で、17.3%にマイナス効果が認められる。英会話でも同様に上級の方がプラス効果の比率がかなり高くなっている。しかし、効果が下がったという回答を見ると、上級が23.5%、普通では13.8%と、上級の方にマイナス効果が多く見られる。

D. 学習意欲

英作文全体では「変わらない」が最も多く45.2%いるが、上級クラスでは学習意欲の大きな変化を示す「増した」が53.3%で最も高い比率を示し、「やや増した」と合わせると80%にものぼる。普通クラスでも、上級クラスに比べてその比率は低い。約3分の1の学生が学習意欲が上昇したと回答している。学習意欲の低下を招いたとの回答は、上級が1名の6.7%、普通が9.6%、全体でも12%しかおらず、学習意欲に関しても習熟度別クラス

編成への評価は全体的に高い。上級英会話では88.2%, 普通英会話では28%, 全体では42.8%が学習意欲が向上したと回答している。

上記4項目とクラスの関係について独立性及び差の検定を、また上級クラス設置がどのような影響を与えたかについては、それぞれのクラスにおける平均値のずれの検定を行った。独立性の検定の結果、全てにおいて独立性が棄却された(表1-14~21)。差の検定においても、同様に、全ての項目に関して上級クラスと普通クラスの間に有意差が認められた(表1-54~61)。これらの結果より、クラスと授業の理解、授業への参加、学習効果及び学習意欲の間には関係があり、上級クラス設置がそれらに与える影響に関して、両クラスでは違いがあると言える。特に学習意欲に関しては英作文・英会話双方において強い関係($p<0.01$)が認められ、また両クラス間の有意差も大きい($p<0.01$)ことが分かる。

平均値のずれの検定では、授業の理解及び学習意欲において全てのグループに、上達への効果では上級英会話を除く全てのグループにおいて、平均値のずれが認められた($p<0.05$)が、授業への参加に関して平均値のずれが見られたのは、上級英作文のみという結果(表1-28~51)であった。

この結果より、英作文の上級クラスでは、理解度・授業への参加・上達への効果・学習意欲のいずれにおいても、習熟度別クラス編成がプラス影響を与えたと言え、普通クラスでは、授業への参加を除いて習熟度別クラス編成のプラス影響を受けていることが分かる。英会話の上級クラスでは、理解度と学習意欲の向上には習熟度別クラス編成が影響を与えているが、授業への参加及び上達への効果には大きな影響は見られない。普通クラスでは、授業への参加に関しては積極性が増したと言えないが、理解度・上達への効果・学習意欲については向上したと解釈できる。つまり、上級クラスの設置は、概ね理解度・上達への効果・学習意欲の向上に貢献したが、授業への参加に対してはあまり影響を与えていないと言えよう。

英会話の上級クラスにおいて、上級クラス設置は英語上達に効果的であるという評価が70%以上を占めていたにもかかわらず、有意な平均値のずれが認められなかったのは、効果が減じたとの評価が20%以上あったためではないかと考えられる。特に、大きな効果の減少を意味する「減じた」が上級に17.6%いることは注目に値する。授業の理解の項目で、理解度が下がったとした学生は上級には1名の6.3%しかいなかったことを考えると、授業のレベルが高くなったことが原因とは考えられない。学生へのインタビューの結果、周囲のよりレベルの高い学生に圧倒され授業への参加の機会が減少し、その結果、英語上達への効果が減少したと感じるとの回答があった。授業への参加度で消極的になったとする学生が上級クラスに23.6%いたことも、これを裏付けている。

普通クラスにおける授業への参加は、英作文、英会話のどちらに関しても変化が認められなかった。積極性が増したと答えた学生は2割程度にとどまり、それどころか消極的になったという回答が15~20%ある。習熟度別クラス編成を行うに当たり期待した効果の一つは、上級クラスに能力の高い学生が抜けることにより、その他の学生がより積極的に授業に参加する機会が増えるのではないかとということであった。しかし、今回の結果から、普通クラスにおける授業への参加に関しては習熟度別クラス編成に期待された効果は見られない。

両科目に対する学習意欲に関しては、上級クラス、普通クラスのどちらにおいても向上している。特に上級クラスにおいては、8～9割の学生に意欲の向上が見られる。学習項目が興味深いと答えている学生も同様に8～9割であり（「授業の満足度とその要因」を参照）、これより、学習内容の興味深さが意欲の向上に結びついているのではないと思われる。習熟度別クラス編成前の学習内容は、平均的な能力の学生に合わせていたと考えられるが、上級クラスでは学習内容が高度になり、興味が増すとともに学習意欲も向上したものと言えるのではないだろうか。また、上級クラスはレベルの高い学生の集まりだけに、互いに触発され学習意欲が高まったということもあろう。上級クラスには及ばないものの、普通クラスにおいても学習意欲の向上が認められたことの意味は大きい。習熟度別クラス編成の問題点として、習熟度の低い方のクラスに分けられた学生の学習意欲の低下が指摘されているが、今回の結果からは、学習意欲の増した学生の方が多いということが分かる。

これらの結果より、習熟のレベルに関係なく学生の能力に合った授業は、全体的に学習効果や態度の向上により影響を及ぼすと言えるのではないだろうか。

5.3.3. クラス編成についての希望

5.3.3.1. 1年生

1年生に対し、英作文と英会話のクラス編成についての希望（表23）を尋ねたところ、「選択科目で補足するなら習熟度別クラス編成は不要である」と答えた学生が一番多く、英作文で35.4%、英会話で31.6%であった。「上級クラスと普通クラスの2レベル編成」の希望者が、英作文では32.9%と英会話27.8%、「上級・中級・初級の3レベル編成」の希望者は、英作文で21.5%、英会話で26.6%で、ほとんど大差ない。1年生はまだ習熟度別クラス編成を実施していないが、選択科目またはレベル分けによる個々の能力に合わせた科目が不要であるとした学生は、英作文では10.1%、英会話では13.9%しかいない。また、「上級・中級・初級の習熟度別クラス編成がいい」と答えた学生が、一番多かったのは、基礎英語を選択しているグループ（40%）で、上級英語選択者の13.6%とかなり差がある。これより、学生全体の傾向として、自分のレベルにあったクラス編成を求めており、基礎力がないと思われる学生ほど、自分の実力を自覚し習熟度別クラス編成の必要性を感じているといえるかもしれない。能力別クラス編成導入に関して懸念していた、能力の低い学生が、劣等感を抱いたり、否定的な考えを持つのではないかという不安が払拭されたといえる。

5.3.3.2. 2年生

2年生に対し、英作文と英会話のクラス編成について希望（表24）を尋ねたところ、「上級クラスと普通クラスの2レベル編成」と答えた学生が一番多く、英作文全体で45.1%、英会話全体では46.3%であった。次いで「上級・中級・初級の3レベル編成」がどちらの科目でも22.0%と多い。上級クラス、普通クラスにおいても、やはり「上級クラスと普通クラスの2レベル編成」が最も高い比率となっている。「3レベル編成」の賛同者はどちらのクラスでも2割前後であるが、若干上級クラスの方が高い比率を示している。注目を引くのは「選択科目での補足、習熟度別クラス編成のどちらも不要」という回答は上級では英作文に1名

見られるだけであるのに対し、普通クラスでは英作文で14%、英会話で22.4%見られる。また、上級では習熟度別クラス編成を希望する学生が、英作文及び英会話のどちらにおいても8割をこえるのに対し、普通クラスでは6割程度である。ここでも上級クラスの学生の方が習熟度別クラス編成に対してより肯定的な傾向が見える。

5.3.3.3. 学年別比較

学年間の違いは明らかである。1年生は、選択科目で補足することを希望するものが多く、2年生は、習熟度別クラス編成の希望者が多い。両学年とも、自分が経験したクラス分けを肯定的に評価している。どちらも不要とする学生は、1, 2年とも10~15%しかいない。つまり、学生全体の9割近くが、個々の能力に応じたクラスの開講を希望しているということであり、習熟度別クラスの在り方について今後さらに検討する必要があると思われる。

5.4. 基礎英語と上級英語について

基礎英語と上級英語に関して、その有益度が表25に、上達度が表26に、参加度が表27に示してある。「基礎英語と上級英語を選択したことが、他の英語の授業に役立ったか」という質問に対して、上級英語選択者では、「役立った」が54.5%、「やや役立った」が31.8%と大変評価が高く、基礎英語選択者でも、「役立った」(30.0%)、「やや役立った」(55.0%)を合わせると8割以上が有益であったと答えている。つまり、選択科目として能力に応じた科目を導入したことは、他の英語学習にも効果的に働いており、学生の習熟度に応じた科目開講の必要性を示唆している。

「基礎英語と上級英語を履修したことで英語力がどの程度上達したか」という問いには、全体で約65%の学生が、「上達した」「やや上達した」という肯定的な評価をしている。上級英語の選択者では、「上達した」または「やや上達した」と答える学生が8割いて、基礎英語の55%に比べて多い。これは、基礎英語を選択した学生の中には、もともと比較的レベルの高い学生もおり、そのような学生は、授業内容のレベルが「低い」(16.7%)または「やや低い」(38.9%)と感じており、英語力が上達したと実感できなかったのかもしれない。

「レベル分けされていない英作文・英会話の授業と基礎/上級英語の授業とどちらが授業に積極的に参加できるか」という質問に対しては、「どちらかといえば基礎/上級英語」と回答する学生が23.8%で「どちらかといえば英作文・英会話」という学生(14.3%)より若干多い。このことから、レベル分けされていないクラスよりも、能力に合わせたクラスの方が、学習意欲が高まるのではないかと推測できる。

最後に、習熟度別クラス編成実施後の基礎英語と上級英語の継続について尋ねたところ(表28)、「両方を残す」と答えたものが31%で、「どちらか一方を残す」と答えたものを合わせると、約5割の学生が、習熟度別クラス編成をした上に、これらの選択科目の継続を望んでおり、不要と答えたのは11.9%にすぎない。この結果も、個人のレベルに合わせたクラス編成と授業内容が望まれていることを示しているといえる。

5.5. まとめ

各学年ごとに、授業の難易度、満足度及び習熟度別クラス編成に対する学生の意識を分析した結果をここにまとめる。

英作文の難易度と満足度に関して、習熟度別クラス編成をしている2年生の方が習熟度別クラス編成をしていない1年生よりも、授業の難易度に関してより適切であり、満足度も高いという結果から、2つのレベルに分けた習熟度別クラス編成は、英作文において一応の成果を上げたといえる。しかし、2年生の結果に見られるように、上級クラスと比べると普通クラスの方はその評価が大きく分かれ、また、満足度などに対する評価そのものも全体的に低くなっている。これは、普通クラスでは学生の能力差がより大きいためであると推測でき、普通クラスの細分化の必要性を示唆する。

満足及び不満の理由として、レベル、学習項目及び進捗と満足度との関係を調査した結果、学習項目と進捗に関してはどちらの学年においても、全ての科目で関係が認められた。レベルに関しては、1年生の英会話と選択科目及び2年生の英作文を除き、満足度と関係がある。したがって、学習項目や進捗は、クラス編成方法の如何に関わらず、学習内容に対する学生の満足度に強い影響を与えるが、レベルは科目や学年によって異なると言える。1年生と2年生を比較すると、1年生にはレベルの不適切さが原因と思われる不満群が英作文に多く見られ、英作文と英会話の進捗においても、習熟度別クラス編成をしていない1年生に「速い」または「遅い」という回答の比率が高いことから、学生の能力に応じたクラス編成が必要だといえるのではないだろうか。また、2年生の上級クラスと普通クラスを比べると、レベル、学習項目及び進捗の全てにおいて、上級クラスにおける評価の方が高い傾向が見られる。特にレベルと満足度との関係を分析すると、英会話においてレベルが自分の能力以下だと感じている学生は全て普通クラスの学生であり、これも普通クラス内のレベル差の大きさを示す結果となっている。

クラス編成に対する学生の希望では、既に習熟度別クラス編成を経験している2年生の方にそれを望む学生が多い。これより、習熟度別クラス編成の成果があったと言えるのではないだろうか。習熟度別クラス編成を望む学生が2年生より少なかったとはいえ、1年生においても、ほぼ9割が何らかの方法で個々の能力に応じた授業を望んでいる。特に、基礎英語の履修者に3レベルの習熟度別クラス編成を望む学生が最も多く見られたことは、習熟度別クラス編成の在り方を模索する上で、大きな指針となるであろう。

2年生を対象とした上級クラス設置の是非とその影響を問う質問では、上級クラスの方が普通クラスより肯定的であるが、全体的に、どちらにも上級クラスの設置は効果的に働いており、学生の能力に合った授業の必要性を確認する結果となった。

第6章 今後の課題及び展望

本稿では、既に習熟度別クラス編成を行っている2年生と、まだ行っていない1年生を対象に、英作文及び英会話における習熟度別クラス編成に関するアンケートを行い、その結果の分析を通して、学習効果や態度に影響を与える要因、また習熟度別クラス編成による学習効果や

態度の変化について考察した。その結果、個々の学生の能力に応じたクラス編成の有効性が確認され、また、普通クラスの細分化の必要性も示唆された。しかし、習熟度別クラス編成の在り方について、また学習効果に関係する要因の探究及びそれをもたらす授業の在り方について決定するには、今回のアンケート調査結果だけではデータ不足である。

今後の課題としては、まずアンケート項目の再検討が必要となろう。今回のアンケートでは質問項目によっては無記入の学生が比較的多かったため、アンケートの実施方法や質問内容を見直す必要がある。現在は英作文と英会話のみ習熟度別クラス編成を行っており、アンケートもこの2科目を中心に行ったが、英文法など他にも習熟度別クラス編成が必要ではと思われる科目もあり、これについても調査が必要となろう。また、アンケート結果を学力との関連で分析することにより、より明確に習熟度別クラス編成の効能と問題点が把握できると考えられる。データ分析に関しては、今回は単純集計と検定による単純な解析のみ行ったが、多変量解析を用いた総合的な分析を行う必要があろう。これらについて詳細な分析を加えるためには、経時データが必要であり、今後も必要なデータを蓄積しながら、教育内容のさらなる検討を続け、どうすれば学習効果が上がり学生が満足する授業が実践できるのか、様々な側面から模索し続けていかなければならないと考える。

注

- 1) 「一般化マンテル検定」とは、片方に順序がある二標本の独立性の検定である。
- 2) 「正確検定」とは、周辺度数に基づいて構成される表をすべて確率計算することによって、精密計算される二標本の独立性の検定である。(両方に順序無し)
- 3) 「マンホイットニー検定」とは、考察される変数が少なくとも順序(順位)尺度で測定されているときに用いられる差を測る検定法である。
- 4) 「1標本のウィルコクソンの符号付き順位検定」とは、平均を3としたとき、実際の集計から求まる分布の平均も3であると言う仮説を考え、両側検定を行うものである。
- 5) 選択科目とは、上級英語、基礎英語、翻訳法の3科目のことで、選択者は、それぞれ22名、20名、36名であった。学生の希望による選択ではあるが、入学時に英語の試験を実施し、その結果で、学生に上級か基礎を取るよう勧めた。学生の能力に完全に合致した選択とは言えず、特に、基礎英語の選択者には、能力の高いものもいた。時間割上、同時間に開講されていたため、アンケートでは、3科目のいずれかを選択したものの回答が、選択科目としてまとめている。ただし、学生のレベルに合わせた科目という点から、上級英語と基礎英語が該当するため、この2科目については、別に分析を加えた。
- 6) 2年生の上級クラスと普通クラスの合計人数が英作文、英会話全体と一致していないが、これは在籍クラスを尋ねる項目に未記入の学生がいたためである。これらの学生の質問項目に対する回答は有効であったため、全体には入れてあるが、クラス別ではクラス選択不明として記載されている。

参考文献

- 池田幸子 (1993) 「海外語学研修に関する研究 (2): その意義と影響」, 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第23号, 133-159.
- 岩切美智代, 池田幸子, 藤田千鶴子 (1992) 「海外語学研修に関する研究 (1): その経緯, 概要, 及び成果」, 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第22号, 85-105.

- Iwakiri, M. (1993). Effects of a study abroad program on the English development of Japanese college students. JACET Bulletin, 24, 41-60.
- 岩切美智代 (1993)「海外語学研修に関する研究 (3): その事前及び事後学習の在り方」, 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第23号, 161-173.
- 岩切美智代 (1994)「海外語学研修に関する研究 (4): 卒業生の意識調査から」, 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第24号, 229-238.
- Harker, R. (1984). Our department of English. Bulletin of Kagoshima Junshin Junior College, 14, 103-110.
- 宮原文夫, 名本幹雄, 山中秀三, 村上隆太, 木下正義, 山本廣基 (1997). 『このままでよいか大学英語教育-- 中・韓・日3カ国の大学生の英語学力と英語学習実態--』松柏社
- 大阪女学院短期大学 (1998)『自己検討誌・何ができて、何ができていないか』大阪女学院短期大学
- 高橋寿夫 (1999)「外国語科目「英語」の改善に向けて-- 習熟度別クラス編成について--」, 『關西大學文學論集』第49巻第4号, 143-162.
- 田中慎也 (1994)『どこへ行く? 大学の外国語教育』三修社
- 鳥飼久美子, 進藤久美子 (1996)『大学英語教育の改革』三修社
- 豊田秀樹 (1998)『調査法講義』朝倉書店

謝辞

習熟度別クラス編成導入のために尽力された先生方およびアンケートに回答してくださった学生の皆さん、ストリーミング委員会のメンバーであり、アンケート作成や集計をはじめ、この調査に深く関わって頂いた本学英語科の小田智代先生、統計処理に御協力いただいた鹿児島大学大学院理工学研究科の徳重修一さんに深く感謝いたします。特に、統計解析を実施するにあたり、鹿児島大学理学部の宿久洋先生に、貴重なご助言を多数頂きました。ここに、改めて深く感謝の意を表します。

付録 1

表 1 検定結果一覧

| 学年 (検定の種類) | 番号 | 項目 1 | 項目 2 | 検定法 | 検定結果 |
|--------------------|----|---------------------------|-----------------------------|---------------|------|
| 1 年 (独立性) | 1 | 英作文満足度理由レベル | 英作文満足度 | 一般化マンテル検定 | ** |
| | 2 | 英作文満足度理由学習項目 | 英作文満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 3 | 英作文満足度理由進度 | 英作文満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 4 | 英会話満足度理由レベル | 英会話満足度 | 一般化マンテル検定 | |
| | 5 | 英会話満足度理由学習項目 | 英会話満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 6 | 英会話満足度理由進度 | 英会話満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 7 | 選択科目満足度理由レベル | 選択科目満足度 | 一般化マンテル検定 | |
| | 8 | 選択科目満足度理由学習項目 | 選択科目満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 9 | 選択科目満足度理由進度 | 選択科目満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| 2 年 (独立性) | 10 | 英作文クラス (上級・普通) | 英作文難易度 | 正確検定 | |
| | 11 | 英会話クラス (上級・普通) | 英会話難易度 | 正確検定 | *** |
| | 12 | 英作文クラス (上級・普通) | 英作文満足度 | 一般化マンテル検定 | |
| | 13 | 英会話クラス (上級・普通) | 英会話満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 14 | 英作文クラス (上級・普通) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | * |
| | 15 | 英作文クラス (上級・普通) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | ** |
| | 16 | 英作文クラス (上級・普通) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | * |
| | 17 | 英作文クラス (上級・普通) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 18 | 英会話クラス (上級・普通) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 19 | 英会話クラス (上級・普通) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | * |
| | 20 | 英会話クラス (上級・普通) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | * |
| | 21 | 英会話クラス (上級・普通) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 22 | 英作文満足度理由レベル | 英作文満足度 | 一般化マンテル検定 | |
| | 23 | 英作文満足度理由学習項目 | 英作文満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 24 | 英作文満足度理由進度 | 英作文満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 25 | 英会話満足度理由レベル | 英会話満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 26 | 英会話満足度理由学習項目 | 英会話満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 27 | 英会話満足度理由進度 | 英会話満足度 | 一般化マンテル検定 | *** |
| 2 年 (平均値) | 28 | 英作文クラス (全体) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 29 | 英作文クラス (上級) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | ** |
| | 30 | 英作文クラス (普通) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 31 | 英会話クラス (全体) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 32 | 英会話クラス (上級) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 33 | 英会話クラス (普通) | 授業の理解 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 34 | 英作文クラス (全体) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | |
| | 35 | 英作文クラス (上級) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | * |
| | 36 | 英作文クラス (普通) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | |
| | 37 | 英会話クラス (全体) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | |
| | 38 | 英会話クラス (上級) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | |
| | 39 | 英会話クラス (普通) | 授業への参加 | 一般化マンテル検定 | |
| | 40 | 英作文クラス (全体) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 41 | 英作文クラス (上級) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | ** |
| | 42 | 英作文クラス (普通) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | * |
| | 43 | 英会話クラス (全体) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 44 | 英会話クラス (上級) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | |
| | 45 | 英会話クラス (普通) | 上達への効果 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 46 | 英作文クラス (全体) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 47 | 英作文クラス (上級) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | * |
| | 48 | 英作文クラス (普通) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 49 | 英会話クラス (全体) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 50 | 英会話クラス (上級) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | *** |
| | 51 | 英会話クラス (普通) | 学習意欲 | 一般化マンテル検定 | * |
| 2 年 (差) | 52 | 英作文クラス (上級・普通) | 英作文満足度 | マンホイットニー検定 | |
| | 53 | 英会話クラス (上級・普通) | 英会話満足度 | マンホイットニー検定 | *** |
| | 54 | 英作文クラス (上級・普通) | 授業の理解 | マンホイットニー検定 | *** |
| | 55 | 英作文クラス (上級・普通) | 授業への参加 | マンホイットニー検定 | * |
| | 56 | 英作文クラス (上級・普通) | 上達への効果 | マンホイットニー検定 | * |
| | 57 | 英作文クラス (上級・普通) | 学習意欲 | マンホイットニー検定 | *** |
| | 58 | 英会話クラス (上級・普通) | 授業の理解 | マンホイットニー検定 | ** |
| | 59 | 英会話クラス (上級・普通) | 授業への参加 | マンホイットニー検定 | * |
| | 60 | 英会話クラス (上級・普通) | 上達への効果 | マンホイットニー検定 | * |
| | 61 | 英会話クラス (上級・普通) | 学習意欲 | マンホイットニー検定 | *** |
| 1 年vs 2 年 (独立性) | 62 | 英作文 1 年満足度 | 英作文 2 年満足度 | 一般化マンテル検定 | ** |
| | 63 | 英会話 1 年満足度 | 英会話 2 年満足度 | 一般化マンテル検定 | |
| | 64 | 英作文 1・2 年難易度が 「ちょうど良い」 | 英作文 1・2 年難易度が 「ちょうど良い」以外 | ピアソンのカイ 2 乗検定 | *** |
| | 65 | 英会話 1・2 年難易度が 「ちょうど良い」 | 英会話 1・2 年難易度が 「ちょうど良い」以外 | ピアソンのカイ 2 乗検定 | |

*** p < 0.01 で有意

** p < 0.05 で有意

* p < 0.1 で有意

表2 授業の難易度に関する印象(1年)

| | 難しい | やや難しい | ちょうど良い | やや易しい | 易しい | 合計 |
|---------|----------|-----------|------------|-----------|----------|-----------|
| 英作文 | 8(10.4%) | 22(28.6%) | 37(48.1%) | 9(11.7%) | 1(1.3%) | 77(100%) |
| 英会話 | 8(5.0%) | 14(8.8%) | 118(73.8%) | 20(12.5%) | 0(0.0%) | 160(100%) |
| 選択科目 全体 | 6(8.2%) | 19(26.0%) | 30(41.1%) | 13(17.8%) | 5(6.8%) | 73(100%) |
| 基礎英語 | 0(0.0%) | 1(5.3%) | 9(47.4%) | 5(26.3%) | 4(21.1%) | 19(100%) |
| 上級英語 | 3(14.3%) | 5(23.8%) | 10(47.6%) | 3(14.3%) | 0(0.0%) | 21(100%) |

表3 授業の難易度に関する印象(2年)

| | 難しい | やや難しい | ちょうど良い | やや易しい | 易しい | 合計 |
|---------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|----------|
| 英作文 全体 | 1(1.2%) | 15(18.5%) | 56(69.1%) | 7(8.6%) | 2(2.5%) | 81(100%) |
| 上級英作文 | 0(0.0%) | 1(7.1%) | 12(85.7%) | 1(7.1%) | 0(0.0%) | 14(100%) |
| 普通英作文 | 1(1.9%) | 9(17.3%) | 35(67.3%) | 5(9.6%) | 2(3.8%) | 52(100%) |
| クラス選択不明 | 0(0.0%) | 5(33.3%) | 9(60.0%) | 1(6.7%) | 0(0.0%) | 15(100%) |
| 英会話 全体 | 0(0.0%) | 7(8.5%) | 55(67.1%) | 16(19.5%) | 4(4.9%) | 82(100%) |
| 上級英会話 | 0(0.0%) | 5(31.3%) | 10(62.5%) | 1(6.3%) | 0(0.0%) | 16(100%) |
| 普通英会話 | 0(0.0%) | 1(2.0%) | 34(66.7%) | 13(25.5%) | 3(5.9%) | 51(100%) |
| クラス選択不明 | 0(0.0%) | 1(6.7%) | 11(73.3%) | 2(13.3%) | 1(6.7%) | 15(100%) |

表4 授業に対する満足度(1年)

| | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 英作文 | 5(6.3%) | 22(27.5%) | 19(23.8%) | 23(28.8%) | 11(13.8%) | 80(100%) |
| 英会話 | 0(0.0%) | 6(7.6%) | 24(30.4%) | 28(35.4%) | 21(26.6%) | 79(100%) |
| 選択科目 全体 | 7(9.2%) | 16(21.1%) | 28(36.8%) | 12(15.8%) | 13(17.1%) | 76(100%) |
| 基礎英語 | 1(5.6%) | 4(22.2%) | 5(27.8%) | 4(22.2%) | 4(22.2%) | 18(100%) |
| 上級英語 | 0(0.0%) | 2(9.1%) | 6(27.3%) | 5(22.7%) | 9(40.9%) | 22(100%) |

表5 授業に対する満足度の要因(1年):レベル

| | 高い | やや高い | ちょうど良い | やや低い | 低い | 合計 |
|---------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|
| 英作文 | 6(9.0%) | 14(20.9%) | 38(56.7%) | 9(13.4%) | 0(0.0%) | 67(100%) |
| 英会話 | 2(2.7%) | 8(10.7%) | 55(73.3%) | 9(12.0%) | 1(1.3%) | 75(100%) |
| 選択科目 全体 | 6(8.0%) | 18(24.0%) | 37(49.3%) | 11(14.7%) | 3(4.0%) | 75(100%) |
| 基礎英語 | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 8(44.4%) | 7(38.9%) | 3(16.7%) | 18(100%) |
| 上級英語 | 3(13.6%) | 8(36.4%) | 10(45.5%) | 1(4.5%) | 0(0.0%) | 22(100%) |

表6 授業に対する満足度の要因(1年):学習項目

| | つまらない | ややつまらない | どちらともいえない | やや興味深い | 興味深い | 合計 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 英作文 | 7(9.2%) | 17(22.4%) | 24(31.6%) | 24(31.6%) | 4(5.3%) | 76(100%) |
| 英会話 | 1(1.3%) | 8(10.4%) | 24(31.2%) | 22(28.6%) | 22(28.6%) | 77(100%) |
| 選択科目 全体 | 14(18.2%) | 18(23.4%) | 24(31.2%) | 11(14.3%) | 10(13.0%) | 77(100%) |
| 基礎英語 | 3(15.8%) | 4(21.1%) | 3(15.8%) | 6(31.6%) | 3(15.8%) | 19(100%) |
| 上級英語 | 0(0.0%) | 3(13.6%) | 8(36.4%) | 4(18.2%) | 7(31.8%) | 22(100%) |

表7 授業に対する満足度の要因(1年):進度

| | | 速い | やや速い | ちょうど良い | やや遅い | 遅い | 合計 |
|------|------|----------|-----------|-----------|----------|---------|----------|
| 英作文 | | 9(11.8%) | 10(13.2%) | 48(63.2%) | 8(10.5%) | 1(1.3%) | 76(100%) |
| 英会話 | | 1(1.3%) | 10(13.2%) | 61(80.3%) | 4(5.3%) | 0(0.0%) | 76(100%) |
| 選択科目 | 全体 | 7(9.3%) | 16(21.3%) | 44(58.7%) | 6(8.0%) | 2(2.7%) | 75(100%) |
| | 基礎英語 | 2(11.8%) | 2(11.8%) | 10(58.8%) | 2(11.8%) | 1(5.9%) | 17(100%) |
| | 上級英語 | 0(0.0%) | 6(27.3%) | 16(72.7%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 22(100%) |

表8 授業に対する満足度(2年)

| | | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|-----|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 英作文 | 全体 | 2(2.4%) | 10(11.8%) | 35(41.2%) | 24(28.2%) | 14(16.5%) | 85(100%) |
| | 上級英作文 | 0(0.0%) | 2(12.5%) | 4(25.0%) | 4(25.0%) | 6(37.5%) | 16(100%) |
| | 普通英作文 | 1(1.9%) | 4(7.7%) | 25(48.1%) | 16(30.8%) | 6(11.5%) | 52(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(5.9%) | 4(23.5%) | 6(35.3%) | 4(23.5%) | 2(11.8%) | 7(100%) |
| 英会話 | 全体 | 2(2.4%) | 16(19.3%) | 20(24.1%) | 24(28.9%) | 21(25.3%) | 83(100%) |
| | 上級英会話 | 0(0.0%) | 3(17.6%) | 3(17.6%) | 9(52.9%) | 2(11.8%) | 17(100%) |
| | 普通英会話 | 1(2.0%) | 11(21.6%) | 11(21.6%) | 14(27.5%) | 14(27.5%) | 51(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(6.7%) | 2(13.3%) | 6(40.0%) | 1(6.7%) | 5(33.3%) | 15(100%) |

表9 授業に対する満足度の要因(2年):レベル

| | | 高い | やや高い | ちょうど良い | やや低い | 低い | 合計 |
|-----|---------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|
| 英作文 | 全体 | 4(4.9%) | 13(15.9%) | 57(69.5%) | 8(9.8%) | 0(0.0%) | 82(100%) |
| | 上級英作文 | 1(7.1%) | 4(28.6%) | 8(57.1%) | 1(7.1%) | 0(0.0%) | 14(100%) |
| | 普通英作文 | 2(3.9%) | 5(9.8%) | 40(78.4%) | 4(7.8%) | 0(0.0%) | 51(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(5.9%) | 4(23.5%) | 9(52.9%) | 3(17.6%) | 0(0.0%) | 17(100%) |
| 英会話 | 全体 | 4(4.8%) | 7(8.3%) | 56(66.7%) | 13(15.5%) | 4(4.8%) | 84(100%) |
| | 上級英会話 | 4(23.5%) | 4(23.5%) | 9(52.9%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 17(100%) |
| | 普通英会話 | 0(0.0%) | 2(3.9%) | 37(72.5%) | 10(19.6%) | 2(3.9%) | 51(100%) |
| | クラス選択不明 | 0(0.0%) | 1(6.3%) | 10(62.5%) | 3(18.8%) | 2(12.5%) | 16(100%) |

表10 授業に対する満足度の要因(2年):学習項目

| | | つまらない | ややつまらない | どちらともいえない | やや興味深い | 興味深い | 合計 |
|-----|---------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 英作文 | 全体 | 9(10.8%) | 14(16.9%) | 29(34.9%) | 21(25.3%) | 10(12.0%) | 83(100%) |
| | 上級英作文 | 0(0.0%) | 2(13.3%) | 1(6.7%) | 6(40.0%) | 6(40.0%) | 15(100%) |
| | 普通英作文 | 5(9.8%) | 8(15.7%) | 20(39.2%) | 14(27.5%) | 4(7.8%) | 51(100%) |
| | クラス選択不明 | 4(23.5%) | 4(23.5%) | 8(47.1%) | 1(5.9%) | 0(0.0%) | 17(100%) |
| 英会話 | 全体 | 5(6.0%) | 17(20.5%) | 15(18.1%) | 22(26.5%) | 24(28.9%) | 83(100%) |
| | 上級英会話 | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 1(5.9%) | 5(29.4%) | 11(64.7%) | 17(100%) |
| | 普通英会話 | 4(7.7%) | 14(26.9%) | 10(19.2%) | 16(30.8%) | 8(15.4%) | 52(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(7.1%) | 3(21.4%) | 4(28.6%) | 1(7.1%) | 5(35.7%) | 14(100%) |

表11 授業に対する満足度の要因（2年）：進度

| | | 速い | やや速い | ちょうど良い | やや遅い | 遅い | 合計 |
|-----|---------|---------|-----------|-----------|----------|---------|----------|
| 英作文 | 全体 | 3(3.7%) | 13(16.0%) | 58(71.6%) | 7(8.6%) | 0(0.0%) | 81(100%) |
| | 上級英作文 | 0(0.0%) | 2(14.3%) | 12(85.7%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 14(100%) |
| | 普通英作文 | 2(3.8%) | 8(15.4%) | 38(73.1%) | 4(7.7%) | 0(0.0%) | 52(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(6.7%) | 3(20.0%) | 8(53.3%) | 3(20.0%) | 0(0.0%) | 15(100%) |
| 英会話 | 全体 | 1(1.3%) | 5(6.4%) | 64(82.1%) | 5(6.4%) | 3(3.8%) | 78(100%) |
| | 上級英会話 | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 15(93.8%) | 1(6.3%) | 0(0.0%) | 16(100%) |
| | 普通英会話 | 1(2.0%) | 4(8.2%) | 38(77.6%) | 4(8.2%) | 2(4.1%) | 49(100%) |
| | クラス選択不明 | 0(0.0%) | 1(7.7%) | 11(84.6%) | 0(0.0%) | 1(7.7%) | 13(100%) |

表12 授業に対する満足度とレベル（2年）：英作文

| | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|--------|---------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 高い | 0(0.0%) | 1(1.2%) | 1(1.2%) | 0(0.0%) | 2(2.5%) | 4(4.9%) |
| やや高い | 0(0.0%) | 6(7.4%) | 3(3.7%) | 1(1.2%) | 3(3.7%) | 13(16.0%) |
| ちょうどいい | 2(2.5%) | 0(0.0%) | 26(32.1%) | 19(23.5%) | 9(11.1%) | 56(69.1%) |
| やや低い | 0(0.0%) | 2(2.5%) | 4(4.9%) | 2(2.5%) | 0(0.0%) | 8(9.9%) |
| 低い | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) |
| 合計 | 2(2.5%) | 0(11.1%) | 34(42.0%) | 22(27.2%) | 14(17.3%) | 81(100%) |

表13 授業に対する満足度とレベル（2年）：英会話

| | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|--------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 高い | 0(0.0%) | 1(1.2%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 3(3.7%) | 4(4.9%) |
| やや高い | 0(0.0%) | 2(2.5%) | 2(2.5%) | 1(1.2%) | 2(2.5%) | 7(8.6%) |
| ちょうどいい | 0(0.0%) | 6(7.4%) | 14(17.3%) | 18(22.2%) | 16(19.8%) | 54(66.7%) |
| やや低い | 0(0.0%) | 6(7.4%) | 3(3.7%) | 4(4.9%) | 0(0.0%) | 13(16.0%) |
| 低い | 2(2.5%) | 1(1.2%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 3(3.7%) |
| 合計 | 2(2.5%) | 16(19.8%) | 19(23.5%) | 23(28.4%) | 20(25.9%) | 81(100%) |

表14 授業に対する満足度と学習項目（2年）：英作文

| | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|-----------|---------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| つまらない | 2(2.4%) | 2(2.4%) | 5(6.1%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 9(11.0%) |
| ややつまらない | 0(0.0%) | 3(3.7%) | 11(13.4%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 14(17.1%) |
| どちらともいえない | 0(0.0%) | 2(2.4%) | 12(14.6%) | 12(14.6%) | 3(3.7%) | 29(35.4%) |
| やや興味深い | 0(0.0%) | 2(2.4%) | 5(6.1%) | 11(13.4%) | 2(2.4%) | 20(24.4%) |
| 興味深い | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 1(1.2%) | 9(11.0%) | 10(12.2%) |
| 合計 | 2(2.4%) | 9(11.0%) | 33(40.2%) | 24(29.3%) | 14(17.1%) | 82(100%) |

表15 授業に対する満足度と学習項目（2年）：英会話

| | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| つまらない | 1(1.3%) | 2(2.5%) | 2(2.5%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 5(6.3%) |
| ややつまらない | 0(0.0%) | 11(13.8%) | 3(3.8%) | 2(2.5%) | 0(0.0%) | 16(20.0%) |
| どちらともいえない | 0(0.0%) | 1(1.3%) | 6(7.5%) | 6(7.5%) | 1(1.3%) | 14(17.5%) |
| やや興味深い | 0(0.0%) | 1(1.3%) | 5(6.3%) | 13(16.3%) | 2(2.5%) | 21(26.3%) |
| 興味深い | 1(1.3%) | 1(1.3%) | 2(2.5%) | 3(3.8%) | 17(21.3%) | 24(30.0%) |
| 合計 | 2(2.5%) | 16(20.0%) | 18(22.5%) | 24(30.0%) | 20(25.0%) | 80(100%) |

表16 授業に対する満足度と進度 (2年): 英作文

| | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|--------|----------|-----------|------------|------------|------------|------------|
| 速い | 1 (1.3%) | 1 (1.3%) | 1 (1.3%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 3 (3.8%) |
| やや速い | 1 (1.3%) | 3 (3.8%) | 8 (10.0%) | 1 (1.3%) | 0 (0.0%) | 13 (16.3%) |
| ちょうど良い | 0 (0.0%) | 3 (3.8%) | 22 (27.5%) | 18 (22.5%) | 14 (17.5%) | 57 (71.3%) |
| やや遅い | 0 (0.0%) | 1 (1.3%) | 2 (2.5%) | 4 (5.0%) | 0 (0.0%) | 7 (8.8%) |
| 遅い | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) |
| 合計 | 2 (2.5%) | 8 (10.0%) | 33 (41.3%) | 23 (28.8%) | 14 (17.5%) | 80 (100%) |

表17 授業に対する満足度と進度 (2年): 英会話

| | 不満 | やや不満 | どちらともいえない | やや満足 | 満足 | 合計 |
|--------|----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 速い | 0 (0.0%) | 1 (1.3%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 1 (1.3%) |
| やや速い | 1 (1.3%) | 3 (4.0%) | 1 (1.3%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 5 (6.7%) |
| ちょうど良い | 1 (1.3%) | 9 (12.0%) | 11 (14.7%) | 22 (29.3%) | 20 (26.7%) | 63 (84.0%) |
| やや遅い | 0 (0.0%) | 2 (2.7%) | 2 (2.7%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 4 (5.3%) |
| 遅い | 0 (0.0%) | 1 (1.3%) | 1 (1.3%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 2 (2.7%) |
| 合計 | 2 (2.7%) | 16 (21.3%) | 15 (20.0%) | 22 (29.3%) | 20 (26.7%) | 75 (100%) |

表18 上級クラス設置の是非 (2年)

| | | よくない | あまりよくない | 分からない | ややいい | いい | 合計 |
|-----|---------|----------|-----------|------------|------------|------------|-----------|
| 英作文 | 全体 | 0 (0.0%) | 5 (5.8%) | 39 (45.3%) | 12 (14.0%) | 30 (34.9%) | 86 (100%) |
| | 上級英作文 | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 2 (12.5%) | 5 (31.3%) | 9 (56.3%) | 16 (100%) |
| | 普通英作文 | 0 (0.0%) | 2 (3.8%) | 31 (58.5%) | 4 (7.5%) | 16 (30.2%) | 53 (100%) |
| | クラス選択不明 | 0 (0.0%) | 3 (17.6%) | 6 (35.3%) | 3 (17.6%) | 5 (29.4%) | 17 (100%) |
| 英会話 | 全体 | 1 (1.2%) | 7 (8.1%) | 33 (38.4%) | 12 (14.0%) | 33 (38.4%) | 86 (100%) |
| | 上級英会話 | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 1 (5.9%) | 3 (17.6%) | 13 (76.5%) | 17 (100%) |
| | 普通英会話 | 1 (1.9%) | 5 (9.6%) | 25 (48.1%) | 6 (11.5%) | 15 (28.8%) | 52 (100%) |
| | クラス選択不明 | 0 (0.0%) | 2 (11.8%) | 7 (41.2%) | 3 (17.6%) | 5 (29.4%) | 17 (100%) |

表19 上級クラスを設けたことによる影響 (2年) A. 授業の理解

| | | 分かりにくくなった | やや分かりにくくなった | 変わらない | やや分かりやすくなった | 分かりやすくなった | 合計 |
|-----|---------|-----------|-------------|------------|-------------|------------|-----------|
| 英作文 | 全体 | 0 (0.0%) | 4 (4.8%) | 52 (62.7%) | 15 (18.1%) | 12 (14.5%) | 83 (100%) |
| | 上級英作文 | 0 (0.0%) | 1 (6.7%) | 6 (40.0%) | 3 (20.0%) | 5 (33.3%) | 15 (100%) |
| | 普通英作文 | 0 (0.0%) | 2 (3.9%) | 35 (68.6%) | 9 (17.6%) | 5 (9.8%) | 51 (100%) |
| | クラス選択不明 | 0 (0.0%) | 1 (5.9%) | 11 (64.7%) | 3 (17.6%) | 2 (11.8%) | 17 (100%) |
| 英会話 | 全体 | 0 (0.0%) | 4 (4.8%) | 52 (62.7%) | 15 (18.1%) | 12 (14.5%) | 83 (100%) |
| | 上級英会話 | 0 (0.0%) | 1 (6.3%) | 5 (31.3%) | 3 (18.8%) | 7 (43.8%) | 16 (100%) |
| | 普通英会話 | 0 (0.0%) | 2 (4.0%) | 36 (72.0%) | 9 (18.0%) | 3 (6.0%) | 50 (100%) |
| | クラス選択不明 | 0 (0.0%) | 1 (5.9%) | 11 (64.7%) | 3 (17.6%) | 2 (11.8%) | 17 (100%) |

表20 上級クラスを設けたことによる影響（2年） B. 授業への参加

| | | 消極的に なった | やや消極的 になった | 変わらない | やや積極的 になった | 積極的に なった | 合計 |
|-----|---------|-------------|---------------|-----------|---------------|-------------|----------|
| 英作文 | 全体 | 4(4.7%) | 11(12.9%) | 45(52.9%) | 13(15.3%) | 12(14.1%) | 85(100%) |
| | 上級英作文 | 1(6.3%) | 1(6.3%) | 6(37.5%) | 3(18.8%) | 5(31.3%) | 16(100%) |
| | 普通英作文 | 2(3.8%) | 8(15.4%) | 31(59.6%) | 7(13.5%) | 4(7.7%) | 52(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(5.9%) | 2(11.8%) | 8(47.1%) | 3(17.6%) | 3(17.6%) | 17(100%) |
| 英会話 | 全体 | 4(4.7%) | 11(12.9%) | 45(52.9%) | 13(15.3%) | 12(14.1%) | 85(100%) |
| | 上級英会話 | 2(11.8%) | 2(11.8%) | 3(17.6%) | 5(29.4%) | 5(29.4%) | 17(100%) |
| | 普通英会話 | 1(2.0%) | 7(13.7%) | 34(66.7%) | 5(9.8%) | 4(7.8%) | 51(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(5.9%) | 2(11.8%) | 8(47.1%) | 3(17.6%) | 3(17.6%) | 17(100%) |

表21 上級クラスを設けたことによる影響（2年） C. 英語上達への効果

| | | 効果が減じた | やや効果が 減じた | 変わらない | やや効果的 になった | 効果的に なった | 合計 |
|-----|---------|----------|--------------|-----------|---------------|-------------|----------|
| 英作文 | 全体 | 5(5.9%) | 8(9.4%) | 34(40.0%) | 28(32.9%) | 10(11.8%) | 85(100%) |
| | 上級英作文 | 1(6.3%) | 1(6.3%) | 3(18.8%) | 7(43.8%) | 4(25.0%) | 16(100%) |
| | 普通英作文 | 3(5.8%) | 6(11.5%) | 21(40.4%) | 18(34.6%) | 4(7.7%) | 52(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(5.9%) | 1(5.9%) | 10(58.8%) | 3(17.6%) | 2(11.8%) | 17(100%) |
| 英会話 | 全体 | 5(5.9%) | 8(9.4%) | 34(40.0%) | 28(32.9%) | 10(11.8%) | 85(100%) |
| | 上級英会話 | 3(17.6%) | 1(5.9%) | 1(5.9%) | 6(35.3%) | 6(35.3%) | 17(100%) |
| | 普通英会話 | 1(2.0%) | 6(11.8%) | 23(45.1%) | 19(37.3%) | 2(3.9%) | 51(100%) |
| | クラス選択不明 | 1(5.9%) | 1(5.9%) | 10(58.8%) | 3(17.6%) | 2(11.8%) | 17(100%) |

表22 上級クラスを設けたことによる影響（2年） D. 学習意欲

| | | 減じた | やや減じた | 変わらない | やや増した | 増した | 合計 |
|-----|---------|----------|---------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 英作文 | 全体 | 5(6.0%) | 5(6.0%) | 38(45.2%) | 20(23.8%) | 16(19.0%) | 84(100%) |
| | 上級英作文 | 1(6.7%) | 0(0.0%) | 2(13.3%) | 4(26.7%) | 8(53.3%) | 15(100%) |
| | 普通英作文 | 1(1.9%) | 4(7.7%) | 30(57.7%) | 12(23.1%) | 5(9.6%) | 52(100%) |
| | クラス選択不明 | 3(17.6%) | 1(5.9%) | 6(35.3%) | 4(23.5%) | 3(17.6%) | 17(100%) |
| 英会話 | 全体 | 5(6.0%) | 5(6.0%) | 38(45.2%) | 20(23.8%) | 16(19.0%) | 84(100%) |
| | 上級英会話 | 1(5.9%) | 0(0.0%) | 1(5.9%) | 5(29.4%) | 10(58.8%) | 17(100%) |
| | 普通英会話 | 1(2.0%) | 4(8.0%) | 31(62.0%) | 11(22.0%) | 3(6.0%) | 50(100%) |
| | クラス選択不明 | 3(17.6%) | 1(5.9%) | 6(35.3%) | 4(23.5%) | 3(17.6%) | 17(100%) |

表23 クラス編成についての希望（1年）

| | | 選択科目 | 2レベル 編成 | 3レベル 編成 | 不要 | その他 | 合計 |
|------|------|-----------|------------|------------|-----------|---------|----------|
| 英作文 | | 28(35.4%) | 26(32.9%) | 17(21.5%) | 8(10.1%) | 0(0.0%) | 79(100%) |
| 英会話 | | 25(31.6%) | 22(27.8%) | 21(26.6%) | 11(13.9%) | 0(0.0%) | 79(100%) |
| 選択科目 | 全体 | 28(36.4%) | 25(32.5%) | 17(22.1%) | 7(9.1%) | 0(0.0%) | 77(100%) |
| | 基礎英語 | 7(35.0%) | 4(20.0%) | 8(40.0%) | 1(5.0%) | 0(0.0%) | 20(100%) |
| | 上級英語 | 8(38.1%) | 8(38.1%) | 3(14.3%) | 2(9.5%) | 0(0.0%) | 21(100%) |

表24 クラス編成についての希望 (2年)

| | | 選択科目 | 2レベル編成 | 3レベル編成 | 不要 | その他 | 合計 |
|-----|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|----------|
| 英作文 | 全体 | 13(15.9%) | 37(45.1%) | 18(22.0%) | 10(12.2%) | 4(4.9%) | 82(100%) |
| | 上級英作文 | 1(6.3%) | 9(56.3%) | 4(25.0%) | 1(6.3%) | 1(6.3%) | 16(100%) |
| | 普通英作文 | 9(18.0%) | 23(46.0%) | 9(18.0%) | 7(14.0%) | 2(4.0%) | 50(100%) |
| | クラス選択不明 | 3(18.8%) | 5(31.3%) | 5(31.3%) | 2(12.5%) | 1(6.3%) | 16(100%) |
| 英会話 | 全体 | 9(11.0%) | 38(46.3%) | 18(22.0%) | 13(15.9%) | 4(4.9%) | 82(100%) |
| | 上級英会話 | 1(5.9%) | 11(64.7%) | 4(23.5%) | 0(0.0%) | 1(5.9%) | 17(100%) |
| | 普通英会話 | 4(8.2%) | 22(44.9%) | 10(20.4%) | 11(22.4%) | 2(4.1%) | 49(100%) |
| | クラス選択不明 | 4(25.0%) | 5(31.3%) | 4(25.0%) | 2(12.5%) | 1(6.3%) | 16(100%) |

表25 基礎英語と上級英語について (1年): 有益度

| | 役立たなかった | あまり役立たなかった | どちらともいえない | やや役立った | 役立った | 合計 |
|------|---------|------------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 基礎英語 | 0(0.0%) | 1(5.0%) | 2(10.0%) | 11(55.0%) | 6(30.0%) | 20(100%) |
| 上級英語 | 0(0.0%) | 1(4.5%) | 2(9.1%) | 7(31.8%) | 12(54.5%) | 22(100%) |
| 合計 | 0(0.0%) | 2(4.8%) | 4(9.5%) | 18(42.9%) | 18(42.9%) | 42(100%) |

表26 基礎英語と上級英語について (1年): 上達度

| | 上達しなかった | あまり上達しなかった | どちらともいえない | やや上達した | 上達した | 合計 |
|------|---------|------------|-----------|-----------|----------|----------|
| 基礎英語 | 0(0.0%) | 2(10.0%) | 7(35.0%) | 9(45.0%) | 2(10.0%) | 20(100%) |
| 上級英語 | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 6(30.0%) | 10(50.0%) | 6(30.0%) | 22(100%) |
| 合計 | 0(0.0%) | 2(4.8%) | 13(31.0%) | 19(45.2%) | 8(19.0%) | 42(100%) |

表27 基礎英語と上級英語について (1年): 参加度

| | 基礎／上級英語 | どちらかといえば基礎／上級英語 | どちらも同じ程度 | どちらかといえば英作文・英会話 | 英作文・英会話 | 合計 |
|------|----------|-----------------|-----------|-----------------|----------|----------|
| 基礎英語 | 3(15.0%) | 3(15.0%) | 5(25.0%) | 5(25.0%) | 4(20.0%) | 20(100%) |
| 上級英語 | 4(18.2%) | 7(31.8%) | 7(31.8%) | 1(4.5%) | 3(13.6%) | 22(100%) |
| 合計 | 7(16.7%) | 10(23.8%) | 12(28.6%) | 6(14.3%) | 7(16.7%) | 42(100%) |

表28 基礎英語と上級英語の継続について (1年)

| | 基礎英語を残す | 上級英語を残す | どちらも残す | どちらも不要 | わからない | 合計 |
|------|----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| 基礎英語 | 4(20.0%) | 2(10.0%) | 5(25.0%) | 4(20.0%) | 5(25.0%) | 20(100%) |
| 上級英語 | 1(4.5%) | 2(9.1%) | 8(36.4%) | 1(4.5%) | 10(45.5%) | 22(100%) |
| 合計 | 5(11.9%) | 4(9.5%) | 13(31.0%) | 5(11.9%) | 15(35.7%) | 42(100%) |

付録2-1

英語科1年へのアンケート

このアンケートは英作文、英会話、選択科目（上級英語、翻訳法、基礎英語）のクラスについて、皆さんがどのように感じているかを調査するものです。英語科の授業をよりよいものにするため、ご協力をお願いします。

あなたは下記のどの科目を選択していますか。1～4で適当なものに○を付けてください。

1. 基礎英語 2. 翻訳法 3. 上級英語 4. どれもとっていない

I 授業の難易度

下記の科目の授業についてどのように感じていますか。1～5であなたの考えに最も近いものを一つ選び○を付け、() には担当教師名を書いて下さい。(2人の教師に教えられている場合は2人とも)

1. 難しい 2. やや難しい 3. ちょうど良い 4. やや易しい 5. 易しい

(1) 英作文 () : 1 2 3 4 5

(2) 英会話 () : 1 2 3 4 5

() : 1 2 3 4 5

(3) 選択科目（上級英語、翻訳法、基礎英語）: 1 2 3 4 5

II 授業に対する満足度

下記の科目の学習内容に対するあなたの満足度はどうですか。1～5の中からあなたの意見に最も近いものを一つ選び、○を付けてください。またその理由A～Cのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いものを1～5の中から一つ選び、○を付けてください。その他の理由があれば、Dに具体的に書いてください。

- (1) ①英作文: 1. 不満 2. やや不満 3. どちらともいえない 4. やや満足 5. 満足

②理由: A. レベル: 1. 高い 2. やや高い 3. ちょうどいい 4. やや低い 5. 低い

B. 学習項目: 1. つまらない 2. ややつまらない 3. どちらともいえない 4. やや興味深い 5. 興味深い

C. 進 度: 1. 速い 2. やや速い 3. ちょうどいい 4. やや遅い 5. 遅い

D. その他: (具体的に:)

- (2) ①英会話: 1. 不満 2. やや不満 3. どちらともいえない 4. やや満足 5. 満足

②理由: A. レベル: 1. 高い 2. やや高い 3. ちょうどいい 4. やや低い 5. 低い

B. 学習項目: 1. つまらない 2. ややつまらない 3. どちらともいえない 4. やや興味深い 5. 興味深い

C. 進 度: 1. 速い 2. やや速い 3. ちょうどいい 4. やや遅い 5. 遅い

D. その他: (具体的に:)

- (3) ①上級/基礎英語・翻訳法: 1. 不満 2. やや不満 3. どちらともいえない 4. やや満足 5. 満足

②理由: A. レベル: 1. 高い 2. やや高い 3. ちょうどいい 4. やや低い 5. 低い

B. 学習項目: 1. つまらない 2. ややつまらない 3. どちらともいえない 4. やや興味深い 5. 興味深い

C. 進 度: 1. 速い 2. やや速い 3. ちょうどいい 4. やや遅い 5. 遅い

D. その他: (具体的に:)

III 習熟度別クラス編成について

現在、英作文・英会話のクラスは習熟度別クラス編成ではありません。それを補うために選択科目として、上級英語、基礎英語を開講しています。

1. 英作文・英会話のクラス編成について、あなたの考えに最も近いものを1～5の中から1つ選び、○を付けて下さい。

(1) 英作文: 1. 選択科目で補足するなら習熟度別クラス編成は不要である

2. 上級クラスと普通クラスの2つに分けるのであれば、習熟度別クラス編成でもいい

3. 上級・中級・初級の3つに分けた習熟度別クラス編成がいい

4. 選択科目も習熟度別クラス編成も不要である

5. その他: (具体的に:)

(2) 英会話: 1. 選択科目で補足するなら習熟度別クラス編成は不要である

2. 上級クラスと普通クラスの2つに分けるのであれば、習熟度別クラス編成でもいい

3. 上級・中級・初級の3つに分けた習熟度別クラス編成がいい

4. 選択科目も習熟度別クラス編成も不要である

5. その他: (具体的に:)

2. 英作文・英会話のクラス以外の英語科専門科目について、習熟度別クラス編成を設けたほうが良いと考える科目があれば、書いて下さい。

Ⅳ 基礎英語と上級英語について（どちらかのクラスを受講した学生は以下の問いに答えてください）

1. この授業で学習したことは英会話、英作文、その他の英語の授業に役に立ちましたか。下記から一つ選び、○をつけてください。
 1. 役立たなかった
 2. あまり役立たなかった
 3. どちらともいえない
 4. やや役立った
 5. 役立った
2. 1で1か2を選んだ学生に聞きます。なぜ役に立たなかったのだと思いますか。最も大きな原因だと思うものを下記から一つ選び、○を付けてください。
 1. 自分の努力不足
 2. レベルが低すぎた
 3. レベルが高すぎた
 4. 他のクラスの内容と重なる部分が多かった
 5. その他：(具体的に：)
3. この授業を受けて自分の英語力（文法・語彙・読解力その他全てを含む）は上達したと思いますか。下記から一つ選び、○を付けてください。
 1. 上達しなかった
 2. あまり上達しなかった
 3. どちらともいえない
 4. やや上達した
 5. 上達した
4. 3で1か2を選んだ学生に聞きます。なぜ上達しなかったのだと思いますか。最も大きな原因だと思うものを下記から一つ選び、○を付けてください。
 1. 自分の努力不足
 2. レベルが低すぎた
 3. レベルが高すぎた
 4. 自分の必要としているものと学習内容が一致していなかった
 5. その他：(具体的に：)
5. レベル分けされていない英作文・英会話の授業と基礎/上級英語の授業とどちらが授業に積極的に参加できますか。下記から一つ選び、○を付けてください。
 1. 基礎/上級英語
 2. どちらかといえば基礎/上級英語
 3. どちらも同じ程度
 4. どちらかといえば英作文・英会話
 5. 英作文・英会話
6. 後期、会話と作文は習熟度別クラス編成（上級クラスが1つできる）になりますが、基礎英語と上級英語の選択科目は残すべきだと思いますか。下記から一つ選び、○を付けてください。
 1. 基礎英語は残すべきだ
 2. 上級英語は残すべきだ
 3. どちらも残すべきだ
 4. どちらも必要ない
 5. 分からない

Ⅴ 英語科の授業に関する意見や要望

英語科の授業に関する意見や要望あったら、具体的に書いて下さい。（裏の紙面を使ってください）

付録2-2

英語科2年へのアンケート

このアンケートは英作文、英会話のクラスについて、皆さんがどのように感じているかを調査するものです。英語科の授業をよりよいものにするため、ご協力をお願いします。

あなたは英作文・英会話のクラスで次のどのクラスに属していますか。

英作文：1. a 2. b 3. c 4. d 5. e

英会話：1. a 2. b 3. c 4. d 5. e

I 授業の難易度

現在、受講している下記の科目の授業について、どのように感じていますか。1～5であなたの考えに最も近いものを一つ選び○を付け、()には担当教師名を書いて下さい。

1. 難しい 2. やや難しい 3. ちょうど良い 4. やや易しい 5. 易しい

(1) 英作文 () : 1 2 3 4 5

(2) 英会話 () : 1 2 3 4 5

II 授業に対する満足度

下記の科目の学習内容に対するあなたの満足度はどうですか。1～5の中からあなたの意見に最も近いものを一つ選び、○を付けてください。またその理由A～Cのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いものを1～5の中から一つ選び、○を付けてください。その他の理由があれば、Dに具体的に書いてください。

(1) ①英作文：1. 不満 2. やや不満 3. どちらともいえない 4. やや満足 5. 満足

②理由：A. レベル：1. 高い 2. やや高い 3. ちょうどいい 4. やや低い 5. 低い

B. 学習項目：1. つまらない 2. ややつまらない 3. どちらともいえない 4. やや興味深い 5. 興味深い

C. 進 度：1. 速い 2. やや速い 3. ちょうどいい 4. やや遅い 5. 遅い

D. その他：(具体的に：)

(2) ①英会話：1. 不満 2. やや不満 3. どちらともいえない 4. やや満足 5. 満足

②理由：A. レベル：1. 高い 2. やや高い 3. ちょうどいい 4. やや低い 5. 低い

B. 学習項目：1. つまらない 2. ややつまらない 3. どちらともいえない 4. やや興味深い 5. 興味深い

C. 進 度：1. 速い 2. やや速い 3. ちょうどいい 4. やや遅い 5. 遅い

D. その他：(具体的に：)

III 習熟度別クラス編成について

1. 上級クラスを設けたことについてどう思いますか。1～5の中からあなたの意見に最も近いものを一つ選び、○を付けてください。また、その理由も具体的に述べてください。

英作文：1. よくない 2. あまりよくない 3. 分からない 4. ややいい 5. いい

理由：

英会話：1. よくない 2. あまりよくない 3. 分からない 4. ややいい 5. いい

理由：

2. 上級クラスを英会話・英作文に設けたことで何か変わりましたか。下記のA～Dそれぞれについてあなたの意見に最も近いものを1～5の中から一つ選び、○を付けてください。他に意見があれば、Eに具体的に書いてください。

A. 授業の理解

1. 分かりにくくなった

2. やや分かりにくくなった

3. 変わらない

4. やや分かりやすくなった

5. 分かりやすくなった

- B. 授業への参加
 - 1. 消極的になった
 - 2. やや消極的になった
 - 3. 変わらない
 - 4. やや積極的になった
 - 5. 積極的になった
 - C. あなたの英語の上達への効果
 - 1. 効果が減じた
 - 2. やや効果が減じた
 - 3. 変わらない
 - 4. やや効果的になった
 - 5. 効果的になった
 - D. 学習意欲
 - 1. 減じた
 - 2. やや減じた
 - 3. 変わらない
 - 4. やや増した
 - 5. 増した
 - E. その他：具体的に（ ）
3. 英作文・英会話のクラス編成について、あなたの考えに最も近いものを1～5の中から1つ選び、○を付けて下さい。
- (1) 英作文
 - 1. 選択科目で補足するなら習熟度別クラス編成は不要である
 - 2. 上級クラスと普通クラスの2つに分ける（現在と同じ）のであれば、習熟度別クラス編成でもいい
 - 3. 上級・中級・初級の3つに分けた習熟度別クラス編成がいい
 - 4. 選択科目も習熟度別クラス編成も不要である
 - 5. その他：（具体的に： ）
 - (2) 英会話
 - 1. 選択科目で補足するなら習熟度別クラス編成は不要である
 - 2. 上級クラスと普通クラスの2つに分ける（現在と同じ）のであれば、習熟度別クラス編成でもいい
 - 3. 上級・中級・初級の3つに分けた習熟度別クラス編成がいい
 - 4. 選択科目も習熟度別クラス編成も不要である
 - 5. その他：（具体的に： ）
4. 英作文・英会話のクラス以外の英語科専門科目について、習熟度別クラス編成を設けたほうが良いと考える科目があれば、書いて下さい。

IV 英語科の授業に関する意見や要望

英語科の授業に関する意見や要望あったら、具体的に書いて下さい。（足りない場合は裏の紙面を使ってください）